

## 白馬嘶く

連作和歌 百首歌集 2012/8/4- 2014/7/10

- 8901 故郷は上条下条富士宮白馬嘶く富士の裾野よ(弁慶) (8月4日 05時30分)
- 8902 到来のリュウキュウ喰むれば涼しき香夫の故郷我も愛す(雛菊) (8月11日 13時03分)
- 8903 喜寿にして老々介護の主夫となりゴーヤチャンプルのレシピを開く(水) (8月14日 11時01分)
- 8904 直立し耳になれなき玉音に父はぼつりと終わったといった (重陽) (8月15日 12時55分)
- 8905 記憶無き幼の身なれどトラウマにあの日居たるは確かなる事(やんま) (9月3日 00時19分)
- 8906 今此処に徹しきれざる凡夫われ明日に異郷に心彷徨ふ(ぼくる) (9月6日 20時46分)
- 8907 愚のなかの愚てふ大師の願文を称へて歩む比叡の山中 (丹仙) (9月12日 00時59分)
- 8908 愚かなり何が真の国益か大局を見よ面子を捨てよ(重陽) (9月23日 05時30分)
- 8909 国と国民と民との思い有り狭くも広き日本海有り(白馬) (10月3日 20時59分)
- 8910 おにひとりとりのこされしかくれんぼ思ひ散りぢり秋はも深む (れん) (10月6日 09時18分)
- 8911 四十年我と住みいる人魚姫二寸身丈に愁思の横顔(水) (10月7日 10時58分)

- 8912 火の道へ誘はれ来れば曼珠沙華秋の残気のいよよ燻ぶる(やんま) (10月7日 13時33分)
- 8913 あかあかと忌みきらわれてかつ妖しわが曼珠沙華よ うつくしく立て(道) (10月9日 08時07分)
- 8914 野にありてこそその赫き火の輝し知るや知らずや曼珠沙華咲く(真奈) (10月11日 11時56分)
- 8915 曼珠沙華咲けるあはひの道を行く埋め火いまだ袂につつみ(寂) (10月11日 14時57分)
- 8916 袖濡らす日々もありけり故郷の富士の麓に一夜明かさん(白馬) (10月13日 16時37分)
- 8917 訪ねしはネットの友と異人館神戸北野の秋の一日 (重陽) (10月23日 13時10分)
- 8918 幕末に天城を越えし異人ありその名はタウンゼントハリス (弁慶) (10月23日 18時42分)
- 8919 ともかくも再発の危機乗越えし吾子の病棟小春日の射す (丹仙) (11月2日 10時27分)
- 8920 ともかくも良かったですねご主人の帰り待ちます枕の言づて(海斗) (11月3日 00時01分)
- 8921 かりそめのこの世なるとも妻となり帰らぬ人となりし君はも (ぼくる) (11月3日 10時31分)
- 8922 折々に君の無念を察しつつ思い尽くせぬ君の心根 (重陽) (11月4日 05時49分)
- 8923 ぼくはいまあいさいがいてしをかいてはずかしながらいきてをります(やんま) (11月22日 22時49分)
- 8924 写真展わたしのコーナー「生きる」とす歴史の一端五十一年 (れん) (11月25日 15時16分)

- 8925 かの人の頬に一筋黒髪の微かにゆれしは五十年前(弁慶) (11月29日 21時44分)
- 8926 六十年経てクラス会見回せば美人薄命確かなること(やんま) (12月3日 12時34分)
- 8927 六十年ぶりに解きおり二次の式数学嫌いの孫も寄り来て(水) (12月4日 14時36分)
- 8928 立ち止まる人などおらぬ駅の朝木枯しに立つ名染めの幟(重陽) (12月9日 15時37分)
- 8929 霜華はや十六を経し桃李(ももすもも)而今(にこん)に止まり来世観ぜむ(丹仙) (1月1日 00時01分)
- 8930 頭上なる前方にかかる彩雲に足とめにけり元朝のこと(れん) (1月1日 15時48分)
- 8931 あかときの光一条射しそめよ足もと怪し此の国のこと(真奈) (1月2日 22時13分)
- 8932 雲割れて光一条海に射し波動寄せ来る新しき年(やんま) (1月3日 05時38分)
- 8933 モノトーンのテレビを切るやトラウマの北の大地の冬の嵐は(重陽) (1月3日 07時40分)
- 8934 箱根山芭蕉も越えし峠道北を見れば朝焼けの富士(弁慶) (1月4日 20時55分)
- 8935 内と外併せ越えけり無の場所に立つ単独者深呼吸せり(丹仙) (1月16日 19時27分)
- 8936 大拙の教へ尊び混迷の世に一灯をかかげ生きばや(ぼくる) (1月21日 11時06分)
- 8937 わが民の美德を説きし稲造の今ひも解かん名著武士道(重陽) (1月21日 14時23分)

- 8938 国賊と罵らるゝもよしゑやし身捨つる汝こそ海の架橋 (丹仙) (1月22日 16時55分)
- 8939 梅初月為すべきことを持たぬ身にいよよ悲しきいにしえの影 (白馬) (1月27日 22時24分)
- 8940 なすべきをなし得づきたりふりむけば生はつかのま椿くれなひ (れん) (2月1日 13時51分)
- 8941 ゆるゆると生きて身の程等身大雲を弔ふ夢は壮大 (やんま) (2月18日 14時32分)
- 8942 気がつけば素寒貧なり捨つるもの無き身弔ふ乾坤独歩 (丹仙) (2月20日 09時01分)
- 8943 今は亡き重陽先輩偲ぶれば春の雲など御霊と思ふ (やんま) (2月22日 22時05分)
- 8944 繊細にして剛毅なる君の死を受けとめることただに悲しき (真奈) (2月22日 22時56分)
- 8945 北国の大地に育ちしなやかに生きし偉丈夫永久に発たれし (ぼくる) (2月24日 09時50分)
- 8946 幾千首の歌を遺して旅立ちし舟を送らむ菊の花手向け (雛菊) (2月24日 10時31分)
- 8947 春去れば弓なる浦や新しき生命 (いのち) の歌のよみがへる朝 (丹仙) (2月24日 10時43分)
- 8948 鎌倉の歌詠み人の訃報聴き嗚咽止まらず涙も止まらず (弁慶) (2月24日 23時33分)
- 8949 鎌倉を思えば遠き潮騒の内耳に残るかの日かの時 (寂) (3月3日 10時30分)
- 8950 青年の志にやあらん白梅のこぼれし笑みの懐かしきかな (真奈) (3月4日 23時31分)

- 8951 二人とも笑顔で並ぶ鎌倉のセピア色なる写真出できし(やんま) (3月6日 23時58分)
- 8952 悲しみはいやますばかり広き背の後を追いたる坂の箱根路 (寂) (3月9日 18時20分)
- 8953 酌み交わす杯の色とこしえに静かに咲ける山吹の花(白馬) (3月26日 23時04分)
- 8954 君と見し匂ふがごとき山吹の香にむせびしは谷津の小曲り(やんま) (4月2日 22時46分)
- 8955 笑みこぼれ癒されし日々竹やぶの小道を歩くロマンスグレイ (くりおね) (4月28日 12時14分)
- 8956 君が袖濡らさじと思ふ清らかな川辺に咲ける堇草かな(白馬) (4月29日 21時10分)
- 8957 ふる里の川の小鮒を釣りし日よあの悪童ら何処へ消えたか(やんま) (5月3日 08時06分)
- 8958 鶴岡の八幡宮の大銀杏ひこばえ若葉青葉となりぬ (くりおね) (5月4日 19時42分)
- 8959 継がれゆく生命眩しも幼ながら青葉若葉の径を駆けゆく(ぼくる) (7月1日 11時41分)
- 8960 独り子が道に線路を描いている蟻の穴には鉄橋の藁(やんま) (7月1日 21時31分)
- 8961 蟻穴をひねもす見詰むるこの夫(つま)を留学させむ髪乱るとも (丹仙) (7月15日 13時41分)
- 8962 蟻地獄足踏み外し千尋の谷を落ち行く夢は正夢(白馬) (7月20日 21時32分)
- 8963 夜毎見る悪夢に追われ目覚むれば寝汗と共に脈の乱るる(やんま) (8月2日 06時49分)

- 8964 再々発悪しき夢なりさはあれど目覚め尽さむ愛しき娘のため (丹仙) (8月10日 09時10分)
- 8965 妻逝きて半年経てど夢にさえ現れて来ず新盆飾る(水) (8月10日 16時57分)
- 8966 濃紫まだぬばたまとならぬ夜の空に輝く光なりけり(海斗) (9月1日 00時34分)
- 8967 祖母に聴く震災の様あらかたは地獄の様のかくぞあるらん(やんま) (9月1日 11時45分)
- 8968 満蒙の地に生き地獄味わひし開拓団の悲史を忘れじ(ぼくる) (9月16日 17時11分)
- 8969 大砂漠万馬軍団駆け巡る神の眼差し何をか語る(白馬) (10月31日 11時36分)
- 8970 無宗教なれどハロウインクリスマス冠婚葬祭なべて従ふ(やんま) (11月1日 19時41分)
- 8971 冬の陽の有難きかな朝日子に拍手を打ち今日が始まる(ぼくる) (11月24日 10時37分)
- 8972 春雪の積み上げられし道の端半月高く煌々と照る(白馬) (2月9日 21時17分)
- 8973 凡々と齢重ねて来たけれど夢褪せぬまま銀河漂ふ(やんま) (2月27日 16時11分)
- 8974 夢のなかまた夢を説く我が身のうちに銀河抱握(をさ)める(丹仙) (3月4日 07時25分)
- 8975 吾が生をつくづく夢と思ふかな数多の出逢ひ夢のひとつこま(ぼくる) (4月23日 17時01分)
- 8976 若葉せし伊吹大樹に支へ杖幾多の出逢ひ縁を生むや(やんま) (4月28日 19時39分)

- 8977 貌の空野に浮かび溶け込みて過ぎにし日々を想う夕かな(白馬) (4月30日 21時11分)
- 8978 朝もやに迫りし山のはや暮れて寺をめぐりしときは止まりぬ (くりおね) (5月1日 13時18分)
- 8979 夕暮れの京の町屋の豆腐売り少し長々立ち話する(やんま) (5月1日 22時49分)
- 8980 夕焼けの空に見惚れし詩心九千番に続くうれしさ(はるか) (5月21日 21時50分)
- 8981 遙かなる地平を目指す少年の詩(うた)に惹かる我が九十九髪 (丹仙) (5月21日 23時00分)
- 8982 みはるかす連なる山のかすみおりなだらかな尾根空へとつづく (くりおね) (5月22日 06時53分)
- 8983 満天の空に震へる星どもよ我も旅人流離ひの(やんま) (5月25日 18時19分)
- 8984 何もかも捨てにしあとに残りしは吾にもあらず人への情け(白馬) (6月8日 21時59分)
- 8985 平成の歌人よ謳え6月の草木の茂り生きる愉しみ (くりおね) (6月9日 14時26分)
- 8986 風鈴のりんで目覚めて見渡せば草木渡る風の音のみ(やんま) (6月11日 22時40分)
- 8987 磯薫る鱧子届けし釣人の会話さわやか初夏の夕暮れ(水) (6月12日 11時59分)
- 8988 透きとおる川に魚影のあわられて翡翠の飛ぶ一直線に (くりおね) (6月16日 10時29分)
- 8989 勤め終え余生ありけりこれからは今が一番若き日々なり(やんま) (6月17日 17時17分)

- 8990 老いに春あるかと自問自答しつつ酌めば旬あり終の住処に(水) (6月20日 10時41分)
- 8991 かなしいと書いては消して幾たびも寂しさだけが消えずのこれり(寂) (6月24日 16時19分)
- 8992 恋の歌詠めぬこの身に一筋の天より落つる音の無き滝(白馬) (6月25日 23時56分)
- 8993 スーパーに入りしあいだの夕立の去りて小雨は光る水晶(くりおね) (6月26日 08時35分)
- 8994 「夕立や買わず飛び込む百貨店」俳句なりやと井戸端句会(水) (6月26日 13時01分)
- 8995 入れ替わる鬱と躁との中ほどに七変化打つ夕立のあり(やんま) (6月29日 21時33分)
- 8996 梅雨ごもり悠々自適パソコンをクリックすれば世界ひろがる(くりおね) (7月1日 08時44分)
- 8997 60年安保の日々思ひ起すしのつく雨よ怒り届けよ(真奈) (7月2日 07時00分)
- 8998 君未だ頬笑むことなしアカシアの雨降りやまぬ国のかたちよ(丹仙) (7月2日 11時05分)
- 8999 激動の安保戦う往年の不良少年何処におわす(くりおね) (7月9日 07時47分)
- 9000 台風の爪痕激し南木曾町小さき旅の窓より祈る(はるか) (7月10日 16時37分)